岩手県総合計画審議会　「人口」「ゆたかさ」合同部会　議事録

日時：平成 24 年 10 月 23 日（火）
17:00～18:20
場所：ホテル三右エ門　２階　姫神

出席者

別紙出席者名簿のとおり。（人口検討部会委員 8 人、ゆたかさ検討部会委員 7 人、事務局 7 人）
なお、一般県民、報道関係者の傍聴はなし。

議題

(1) 座長の選出について

事務局案として、人口検討部会の浅沼委員を提案し、了承された。

(2) 現地視察会の概要について

各検討部会の座長から、概要を説明。

①人口検討部会　説明者：浅沼座長

【要旨】

○（株）三和ドレスについて

・盛岡と二戸に工場があるフォーマルウェアを作っている会社。
・業種の特性上、女性社員がほとんどであるため、保育園を作るなどのアフターケアに努めている。ただ、企業の論理からすると、たとえば、産休で休む方がいると厳しい面もあるとのこと。
・若い感覚が必要であるため、高卒者を多く採用しているが、盛岡の場合は県内から集まってくるものの、二戸の場合は地元採用がほとんどとのこと。少子化の影響もあり、二戸では受けてくれる人がどんどん減ってしまっていることを心配されていた。
・技能五輪にチャレンジさせたりするなどして、目的意識を持つように社員を育てている。そういったことがないと従業員の質的向上も緩慢になってくるとのこと。
・従業員の父母の介護もサポートしていかなければ継続して勤務してもらうことは難しいとの社長さんの考えにより、現在は、福祉・介護の分野にも事業を展開している。
・社長さんは、現在抱えている様々な問題に対応するため、工夫を重ねてきているが、なかなか追いついていない状況で、雇用を継続していくことの難しさを感じた。たた、社長さんがバイタリティに溢れており、そういった方が経営する会社がたくさんあると、それなりに雇用が生まれる感じがした。

○農家レストラン遊民について

・農家がやってらっしゃる仕出し屋さん。
・農業を継続していくための工夫の一つとして、自分たちが作ったものを加工して売り出すようになったとのこと。
・当初は、家族の協力がなくて大変だったが、今は、みんなで協力し合ってやっているとのこと。
・高橋さんの所は、長男だけは家に残り、農家を継いでくれているが、農家を継ぐ人や支え

ていく人材は不足しているとおっしゃっていた。農地の改良が進み、環境はよくなってきているが、高齢化がどんどん進み、若い人は離れていってしまうとのこと。助成金等がたくさんあって、それを追いかけながら今はなんとかやっているが、抜本的な解決にはなっておらず、近い将来、確実に土地が荒れ放題になってしまうのではないかと懸念されていた。

○花巻市起業化支援センターについて

・バイタリティのあるコーディネーターから圧倒されるようなプレゼンを受けた。本当に頑張っているということが伝わってきた。

・特に印象に残ったのは、長く支援をするということ。補助金等でいうと少なくとも5年程度、トータルでは 15 年程度は支援を継続するとのこと。失敗もあるだろうが、こういったものを育てると覚悟を決めて長く支援をすることによって、県外から来た企業もそのまま地元に残ってくれるとのこと。

・このようなセンターが色々な所にたくさんできたらどうかという質問をしたところ、県内には既に 30 くらいはあるし、たくさんあってもお互いに足を引っ張り合うことになってしまうので、広くやるよりも特化した支援で育てていった方が効果的ではないかといったお話をいただいた。

・強く感じたのは政策が大事であるということ。きちんとした政策の下に長期的な覚悟を決めて進めていることが、成功につながったのだと感じた。

○（特非）いわて地域づくり支援センターについて

・当該法人では、これまで地域づくりという観点から様々な取組みを行ってきたが、そのノウハウを活かして、現在、「ふるさと応援団」というものを進めている。これは、地域を出た人に対して、その地域の様子を伝える手紙を送ることにより、つながりを維持するための取組み。

・手紙を受けた人は非常に懐かしく、これをきっかけにまた戻ることもあるが、戻ってくるかどうかは別として、自分たちの地域の情報を送り続けているとのこと。手ごたえを少しずつ感じているが、今すぐどうこうというわけではなく、長い目で見た取組みを行っているとおっしゃっていた。

・私もＮＰＯ活動を行っていることもあり、興味深くお話を聞いていたが、まちづくり・コミュニティづくりは定住に向けてのベースではないかという感想を持った。ただし、それは地域づくりをやっている団体が頑張ればいいだけの話ではなくて、色々な側面から関わりを持つことが必要。

○全体的な感想について

・どこにどう支援をしたらつながるかを見据えたうえで支援を行うことが必要。

・三和ドレスさんも単純に雇用を生んでいるわけではなく、企業の論理が当然ある。社長さんは企業にとっても働く方にもプラスになるようないい関係をもっていくとおっしゃっていた。

・農業についても、政策がどこかずれている。色々な政策が後々残らず、ただいつも追いか

けさせられている状況で、どしっと構えて確実に進められる感じがない。

・うまくいっている話をされていた起業化支援センターさんも、聞くと大変な状況。センター自体の役割は今後もあるだろうが、新たな長期の戦略を立てなければ今後は厳しいのではないかという危機感を個人的には感じた。

・いわて地域づくり支援センターさんも、定住につながるような活動をされているが、経営自体が不安定で、いつどうなるかわからない状況でやっている。

・網羅的に色々なところに手をかけていくのではなくて、今回得た情報や他の情報を踏まえ、明確な戦略を持って、少しお金を掛ける部分と、少し我慢してもらう部分とを分けた方がいいのではないかという感想を持った。

②ゆたかさ検討部会　説明者：山田座長

【要旨】

〇遠野地域木材総合供給モデル基地について

・民有林を主として原木の伐採から加工・製造まで一貫して行うまさに総合的な供給基地で、平成 5～15 年度の約 11 年かけて整備を行い、平成 17 年度には木工団地内事業体の相談役として「協同組合　森林のくに遠野・協同機構」を設立した。

・かなり広大な土地の中に 10 の事業体がまとまっている。ひとつひとつの施設も立派で、木の香りのする施設に入らせてもらった。

・製材、乾燥、集成材加工、プレカット加工と一連の工程すべてを行っており、例えば、東大の講堂や遠野市内の公共施設にこの木材が使われているとのこと。

・震災以降は、釜石、大槌、遠野の 2 市 1 町で「上閉伊地域復興住宅協議会」が作られており、釜石・大槌から木を運んできて、遠野で乾燥して、使用できるようにすることで、雇用も生み出しているとの説明を受けた。

・この遠野の事例では、職人の技術を活かして付加価値を付けていることが強みとなっていると思う。

〇レストラン結和について

・今年３月にオープンした。遠野から盛岡に行くルートからは若干外れているが、目の前に電車が走っている非常に気持ちのいい場所である。

・元々はＪＡの店舗だったそうだが、それを遠野市が譲り受けて、睦会という社会福祉法人が借りているところを使わせてもらっており、産直とレストランが併設されている。

・レストランを運営されている「あやおり夢を咲かせる女性の会」は 20～70 代の女性約 30 名で構成されていて、会長の菊池さんの綾織地域を元気にしたいという想いが発揮されている場所であると感じた。

・地元の方も利用しているほか、夏場はお客さんが多く入り、また、敬老会のお弁当を作ったりもしているということで、これからどんどん盛り上がってくるのかなと期待をしている。

・地域の役に立ちたいという綾織中学校の生徒がレストランの環境整備をやってくれているほか、「結和」という名前も生徒が考えたとのこと。

・菊池さんは、いずれは睦会の障がいをお持ちの方にもお店に入ってもらいたいと考えてい

るとおっしゃっていた。

・色々な方が携わって地域として産直やレストランを作っているという点が特に印象的であった。

〇遠野ドライビングスクールについて

・開校してからの 8 年でおよそ 6400 人の生徒を受け入れてきたが、そのうち約 1300 人が授業の合間に農村体験、乗馬体験等をしているとのこと。

・管理者さんは、このままだと農業もどんどん衰退していってしまうという危機感がおありで、若い人の遠野ファンを増やしていきたいとおっしゃっていた。

・生徒があまり多くない閑散期を利用して職員が農業を行っており、トマトやしいたけを栽培しているとのこと。無農薬のトマトジュースをいただいたが、大変おいしかった。

・合宿型の自動車免許取得教習であるが、宿泊場所は、遠野市内の旅館などの宿泊施設や民泊を利用しており、ちょうど宿泊客が少ない時期に重なるとの説明を受けた。

・遠野が抱えている諸課題に対して、ドライビングスクールやツーリズム、ファンづくりといった色々な要素を組み合わせているアイディアに感銘を受けた。

〇やかまし村について

・集落の一角に木がそびえていて、ピザ窯などがある。

・集落内の意識を考えながら、地域の人たちで集まって、お茶を飲んだりお酒飲んだりして楽しみながらやるところから始まったもので、緩やかな連帯が作られているように感じた。

・月に 1 回くらい定例で集まって、飲んだり食べたりするほかに、修学旅行生やドライビングスクールの生徒にも入ってもらいながら、楽しみながらやっている印象。

・忙しい時期には 3 日に 1 回くらい農業体験の対応に当たられるということで忙しそうなご様子であったが、他の地域の方と交流することで、話すことにも慣れ、それが自信につながるようにもなったとおっしゃっていた点も印象的で、やはり重要な点だと思う。

⑶ 各検討部会の論点、議論の展開方向等について

〇工藤委員

・本日お伺いした「いわて地域づくり支援センター」の若菜さんは茨城県出身だが、岩手が好きでやって来て、岩手で生活をしているとおっしゃっていた。でも、60 歳を過ぎたあたりには、お父さんの出身地である九州に帰りたいともおっしゃっていた。自身は住んだ経験がないが、お父さんが過ごした地で、親戚もいる九州に故郷を感じるとのこと。

・人口増加という観点からは、都会などにいるそういう人たちへアプローチすることも一つの方法かと思った。

・ただ、60 歳を過ぎてやって来るのであれば、働きに来るということではないので、福祉的な面も考えなければならない。

・岩手のよさは、一度県外に出てみないとわからない部分もあるが、地元に残っている人が県外に出た人に対して反感を持つこともあるようなので、それを払拭するような何かが生まれるようになればよいと思う。

○菅原委員

・私は一時的に離れた時期を除けば、基本的にはずっと水沢で過ごしてきたが、若い時は、水沢をつまらない町だと思っていた。ＮＰＯ活動をするようになって、地域で活動する団体がどんな思いでどういったことをやっているかを知るようになり、町のよさが分かるようになった。

・若い人たちは、自分の地域のことを分かっていないし、教えてもらう機会もないと思う。例えば、出前講座等で学校に行き、地域の取組や手本となるような人を伝えていくことも、大人の大切な役割であると思う。

○藤井委員

・私も西日本から岩手に来たのだが、文化風潮が全然違っており戸惑ったこともあったが、だんだんと岩手の良さが分かるようになった。岩手から外に出られた方も同様の経験をされていると思う。

○森奥委員

・本日お伺いした「起業化支援センター」だが、3D 測定器などの個々の企業では購入できないような高額な機械や環境試験室があるほか、岩手大学の専従職員を配置していたり、工業クラブが入っていたりして、地元企業が相談をしやすい体制が整備されているように感じた。

・花巻は昔から企業誘致も進んでいたが、地元への還元率が 20%程度と低かったことから、地元企業に力をつけてもらうために、平成 3 年にセンターが開設されたとのこと。景気の良かった時期に先を見越して行われた先進的な取組であると思う。

・企業誘致によっても雇用は生まれるが、地域にとって本当に大切なのは、地元の企業が力を付けて伸びていくこと。

・人口が少なく、インフラも整備されていない沿岸ではなく、内陸においてこのような取組が行われたことに地域の温度差を感じる。県には、個の力ではどうすることもできない状況の沿岸部において、支援センターのような産学官が連携した取組を行ってほしい。

○鎌田委員

・企業支援の補助金等があっても活用できないことが多い。ある程度の規模の会社は、補助金申請をするスタッフがいるが、そういったスタッフがいない会社では通常の仕事以外に事務仕事をする余裕がなく、申請をすることすらできない。

・グループ補助金の時は、申請書が書けないのでどうしようっていう人たちが一緒になって何とか申請したが、地元企業を強くするためには、そういった手続き面の支援をすることも必要だと思う。

・起業する意欲を持つ人を支援する仕組みも必要。地元で起業する人が増えれば、競争が増え、地域が活性化する。

・今日行った木工団地では、それぞれの会社が役割を持ち、林業を支えていた。企業誘致については、地元の企業ができない部分を補えるような会社を調査して、誘致することも必要と思う。

○米澤委員

・今日お話しいただいた方々は、熱意にあふれ、行動力があって、様々なアイディアを持っていらした。こういった人材を育成していかなければならないと思う。熱意やアイディアを持った人が起業して、色々な所で核となっていけばいいのだが、そうでなくとも会社にそういう人がいれば、業績が上がって新たな雇用にもつながっていく。

・今日お伺いしたところは、知らないところばかりだった。ああいう施設等の存在を知れば活用したいという人がたくさん出てくると思うので、もっと情報発信を行っていくことが大切だと思った。

○吉田委員

・今の企業に対して支援していくことも大切だが、長期的な視点で考えると、工業立地としてのブランド化を図ることが大切。質のいい高卒の人材をたくさん獲得できることが岩手に企業立地する魅力の一つだと思うが、若い人たちが集まって「ものづくり」について語り合ってお互い高め合っていくような機会を継続して設けていけば、工業立地県としての岩手のブランド力が高まっていくのではないかと思う。

○工藤委員

・今回新しく知ったこともちろんあるが、県でも色々な施策をやっていて、すでにあることもある。例えば、助成金の申請補助をしてくれる人を紹介することも県はやっているし、それができる施設もたくさんある。

・ただ、それを企業が知ることができなかったり、知るアンテナが少なかったりすることがあるので、情報発信を行っていくことはもちろんだが、企業も県庁に問い合わせたりして、自ら情報収集していくようになるよう啓発していくことも必要だと思う。自分の体験からしても、県は気軽に相談に乗ってくれるし、敷居は高くないということを知った方が良いと思う。

○谷藤委員

・花巻の起業家支援センターのような各市が設置している支援施設や県の産業振興センターにはコーディネーターと呼ばれる人たちがいるが、そういった人たちの話を聞いていると、補助金の採択等はコーディネーターの腕にかなり影響されているという印象を受ける。

・コーディネーターには、補助制度や地域の企業に関する知識のほか、例えば、工場を作ったりするような場合はどういう企業を組み合わせるかについての知識が必要だが、コーディネーターになるための資格があるわけではないので、人によって能力のバラつきがある。

・また、計画的に養成してこなかったことや任期付の採用など身分が不安定であることが多いといった理由から、コーディネーターの絶対数も不足してきている。

・企業誘致や地場産業の振興に取り組む場合、大量生産型のものづくりは、日本を含む先進国ではもうやっていけないということを念頭に置く必要がある。今後は、今日伺った遠野の木工団地でやっているような多品種少量生産を行っていかなければならず、職人芸のような個々の労働者の技術が求められるようになる。そういった人材をどう育んでいくかが課題。

・大阪に「Tabio」という靴下を製造する会社があるが、そこでは機械が作った靴下に職人が技を入れて、肌にフィットする良い靴下にしている。靴下は何回も買い替える消耗品だが、

その品質から固定客がついているとのこと。ものづくりには、そういった一品生産的な要素が色々な形でいずれ入ってくるのではないか。

・一方で、職人の手仕事を機械が代替する可能性として、世界的に 3D プリンタが注目されている。インクジェットの方式で色々な素材を吹き付けて層を作り、立体を作る機械であるが、例えば、医療の分野で、個々の患者に合った関節を試作したりする場合に活用されているようである。この機械の機能が高まっていけば、パソコンと 3D プリンタとソフトの 3 つがあれば何でも作れるような時代が来て、ものづくりの有り様も変わるかもしれない。

○菅原委員

・遠野で様々な方からお話を伺ったが、皆さんが、人口が減っていることを受け入れたうえでどうしていくべきかを考えているように見受けられた。木工団地の大量生産でない考え方もそういったところから生まれてきたのだと思う。

・「(特非) 遠野山・里・暮らしネットワーク」は、各地域にいる地域を元気にしたいと頑張っているキーマンを上手に繋いでおり、感心した。その仕掛け人だと思われる会長さんは行政と民間の両方に精通している方で、今後はそういった方がコーディネーターとして必要になってくると思う。

○浅沼座長

・コーディネーターや NPO 活動をしている人たち、ものづくり・まちづくりに関わっている人たちを育成したり働きやすくしたりする仕組みをお金をかけて戦略的に作っていかなければならないと思う。優秀な人たちが自分や家族を犠牲にして、来年どうなるか分からないような環境で活動している状況では、とてもいい形には進まない。

・視察内容の説明の際もお話ししたが、お金や力のかけどころが違っているところがあるので、新たな発想をもっていかなければならないと思う。

・この会議の良さは、色々な分野の方がいることにあるが、それでも今日見たことは全然知らなかったことばかりで、ずっと感動していた。世の中には知らないことがたくさんあるので、そこから何かを感じ取れる感性を持った人材を育成していくことが大切だと思う。

○菊田委員

・公務員の OB に対する期待は大きい。様々な部署に異動する中で、文書の作成スキルや県・市町村の助成制度に関する知識など身に着けている公務員が、民間企業や NPO に入ってきて支援をしてくれると非常に頼りになる。

○早野委員

・花巻の高校生たちを集めて、色々なプランを作成したり、ディスカッションしたりする場に呼ばれて講演をしたことがある。花巻には、そういった若者を育んでいくような意識が町全体にあるように感じる。

・宮古で被災地支援に関する説明会が開催されたときに、青森からものづくり企業を紹介する人が来ていた。その人は、故障した機械を直すための小さな部品をオーダーメイドで作って

くれるような企業の紹介をしていたが、例えば、花巻でも工業が盛んなので、そういう企業があるかもしれないが、そういう企業を紹介してつなげる窓口のような所があると分かりやすいと思う。

・県外から来た人に定住してもらうことよりハードルを下げて、ショートステイのような形で滞在してもらうことから始めると、受け入れやすいこともあるかと思う。

(4) 県民意識調査の設問（案）について

事務局より資料 3 に基づき、説明。

(5) その他

事務局より誘致企業の概況を示す資料 4-1、人口増加自治体の事例をまとめた資料 4-2 を紹介。